

## 生徒を引率中(指導中)に経験したヒヤリ・ハット事例集 (動物・虫)

独立行政法人日本スポーツ振興センター国立登山研修所

※ この事例集は、平成29年度に開催した高等学校等安全登山指導者研修会の事前課題で研修生の皆さんから収集したヒヤリ・ハットの主な事例と対応についてまとめたものです。場所や人が特定されないように、修正を加えたものです。

キーワード	事例	対応、その他
動物・虫	先頭を歩く生徒が登山道脇のママシに気づかず、側を通過した際に威嚇された。	ママシに気づいた後は、距離を取るため道から逸れて通行した。
動物・虫	動物が多いコースの歩行後、女子生徒の足にヤマヒルが2匹着いていて、血を吸われた。	ヤマヒルを足から剥がし、カットバンを貼ったが、血がしばらく止まらなかった。
動物・虫	引率していた生徒の半数以上が蜂に刺される。	ポイズンリムーバーで処置。下山後、保護者に連絡し、経過を注意深く観察してもらい、場合によっては医療機関へ連れて行ってもらうように依頼した。
動物・虫	休憩中に大きなハチがたくさん。刺されたら重篤な危険になるのではという危惧。	むやみに騒ぎ立てない、ハチを刺激しないようにして、休憩を手短かにしてすぐ移動。
動物・虫	牧野の中の登山道を歩いているとき、放牧中の牛が近づいてきた。	当の牛を見ないようにさせ、遠回りの道を選択しながら、急ぎ足で、しかし決して走らず、その場を立ち去るように誘導した。
動物・虫	夏合宿で登山中、女子生徒がブユに刺された。はじめは軽く考えていたが、まぶたを刺されたために大きく腫れて、視界が遮られるほどになり、登山行動が不可能となった。	小屋の診療所で診察してもらい、薬を服用したがすぐに効果が表れず、顧問の一人が付き添って下山、バスにて帰京した。虫よけ対策やアレルギー等の調査をもっと細かく事前しておくべきであった。